

BCG は乳児期の予防接種です。4 歳未満には推奨されていますが、1 歳からは特段の事情がない限り任意接種です。希望なら必ずツベルクリン検査(ツ反)で完璧な陰性を確認して BCG を接種します。Erythema(紅斑)10 mm未満だけでなく Induration (硬結/膨疹)5 mm未満を確認します。当センターでは生後 10 か月以降での接種には、先にツ反で陰性確認を推奨しています。名古屋市は結核が多い地域なので慎重になっています。やはり 10 か月頃からの接種ではコッホ現象あるいはコッホもどきでの紹介が増えてきます。

成人、少なくとも学童以上での BCG 接種はその効果は期待できないとされています。2002 年まで小学 1・2 年、中学 1・2 年で陰性のままの人には接種していた時期もありましたが、十分な効果が期待できないことと、接種部位の瘢痕化が目立ち、ケロイド痕を残す例が指摘されて再接種を中止しました。翌年からは 4 歳未満での 1 回のみ接種として今日に至っています。陰性者には繰り返し接種していただきましたので 70 歳でも BCG 痕を確認できます。以前にも医療系の学生や留学生への間違っただけの対応について指摘し考察してきました。

2020 年 3 月頃から、BCG 接種が新型コロナウイルス感染症(コロナ)の重症化を予防するかもしれないという噂を信じて、任意での接種を希望する問い合わせが増えてきています。年齢も下は 5 歳から中高生そして上は 74 歳までありました。きちんと説明して納得いただいています。BCG 接種をしていない、あるいは母子手帳を紛失して確認できない、などと訴えています。米国など先進国(北米西欧豪州)で生まれると通常は BCG を接種しません。帰国後に直ぐに対応すれば良かったと思いますが、その時にそれを指摘してくれる施設に恵まれなかったことは残念です。個人的には 4 歳を超えても、せめて幼児期なら BCG 接種の対象と考えてはいます。勿論コロナ対策ではなく国内での結核対策としてですが。学童以上では、ぜひツ反をしておくといいでしょう。先進国では入学時などにそのように対応しています。麻疹風疹おたふく水痘の抗体検査で不足分を追加して、母子手帳の接種洩れなどをチェックするにはいい機会と考えます。あらためてワクチンに関心を持ってください。

日本の BCG 接種は戦後の混乱期と結核の蔓延に対応するために早々に始められ、1950 年にワクチン改良、1965 年に種類(東京株)が変更され、1967 年からは今の経皮接種法(管針による押圧)になりました。その後、接種対象年齢や接種方法の変遷を経て 2013 年から現状の推奨年齢となっています。今の管針法は乳児期の薄い皮膚に軽く皮内接種するように作られています。少なくとも成人用の接種方法ではありません。

BCG がコロナの重症化に有効というデータは今のところありません。現時点ではこじ付けの範囲を超えるものではないと考えます。その論文は黄熱ワクチンで評価したデータですから全く異なるものです。かも知れないという程度で接種してはいけません。1 年後にはオーストラリアやオランダでの検証が出るかも知れませんが、日本の BCG は成人用には作られていないのでそのままの利用は難しいです。無責任な接種は瘢痕化を助長しかねません。

製造会社は乳児期の定期接種用としてその必要量を準備しています。それを意味もなく中途半端な理由で横取りされては困ります。結核感染でより重症化しそうな乳児には BCG は必須のワクチンです。日本ワクチン学会からも同様のコメントが出ています。

マスコミに出ている医師には BCG ワクチンの専門家は一人もおりません。感染症専門の先生もワクチンにはほぼ素人です。BCG を接種したこともなく BCG の目的も知らない、医師の肩書だけで無責任な発言は慎んでほしいところです。海外の検証を待ちましょう。